

城嶺橋

(しろかねばし)

愛知縣土木工師 田島治身

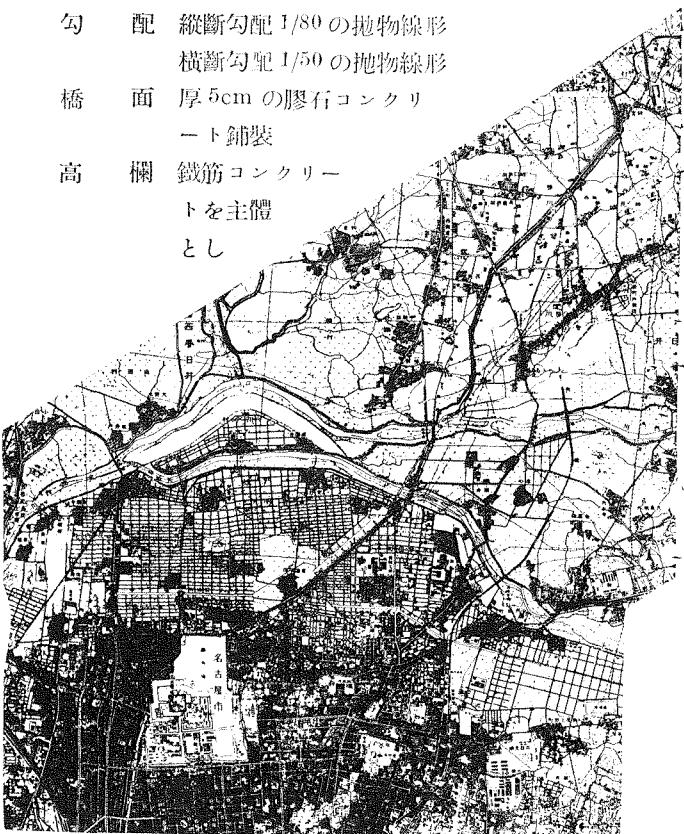
(1) 概 説

名古屋驛より中央線の汽車又はガソリンカーに乗れば僅に45分時にて定光寺驛に至る、此驛の待合室は直下を流る、庄内川（此の附近一名玉の川とも云ふ）の水面より16米突餘の高さで断崖に建設されてゐる。此の附近一帯は史蹟名勝の地にして名古屋百萬市民の一日の清遊に最も好適の場所である。驛の待合室より東方を眺むれば足下の玉の清流は浅い瀬をなし奔流は奇岩怪石に衝突して白沫を飛す、東岸に高く聳ゆる定光寺山は松や樺椎類の常緑樹が鬱蒼として生ひ茂り翠峰重疊し遠くの山は模糊として恰も山嶽の繪畫を見る様である、待合室より石の階段を降りて道路に出れば西側は灰褐色の硬砂岩の断崖で東側即ち右岸寄には茶亭や料亭が十數軒も並んで居り、此の軒外れに城嶺橋が架設されてゐる。橋を渡りて左岸（東岸）に至り山腹を縫ふ、縣道を登ること1糠餘にして定光寺に達す。本堂の裏手には尾張藩祖源敬公の墓がある、此邊古木大木生ひ茂り靈氣の襲ひ来るを覺ゆ。城嶺橋は斯る風光明媚なる絶勝地の主要門戸として大なる役割を持つものである。

然るに舊橋は無補剛性木造吊橋にして橋幅の狹少なるが爲め人馬のみの通行を許しかかも所々に補強を施し場所柄として全く不體裁な構造物となりて遺憾ながら新時代の要求を充分に満足せしめることが出来なくなりしを以て工費36,000餘圓を投じ環境の風致に順應する様美觀と調和とを失はない計畫を樹て茲に開側鐵筋コンクリート拱橋に改築したものである。

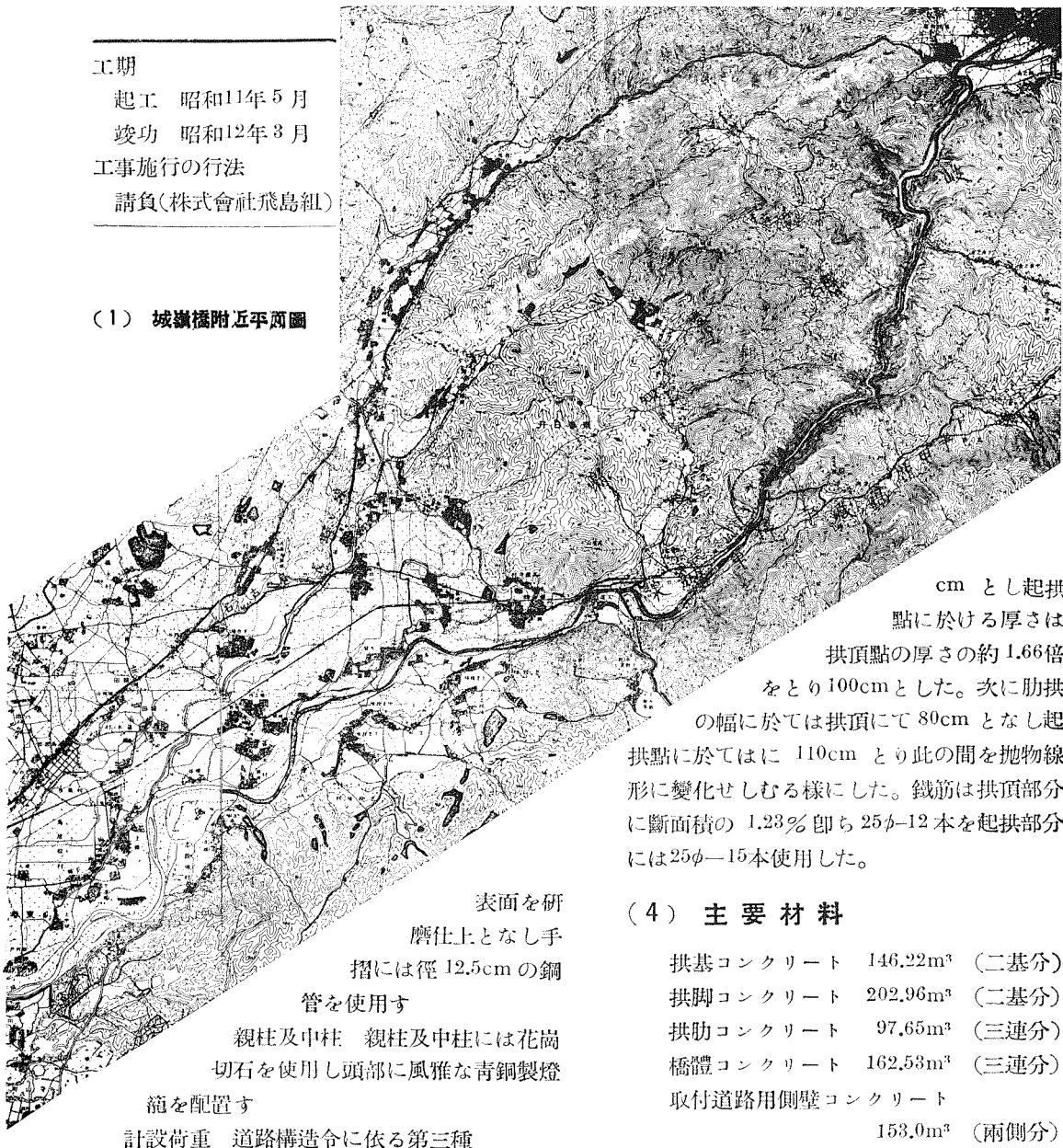
(2) 計畫の概要

路線名	府縣道下半川高藏寺停車場線
位 置 右岸	愛知縣東春日井郡高藏寺町
左岸	愛知縣東春日井郡品野町
橋 長	71.94m
有効幅員	4.5m
型 式	開側鐵筋コンクリート拱橋
徑 間	23.04m 鐵筋コンクリート拱橋三連
拱 矢	3.3m
勾 配	縦断勾配1/80の抛物線形 横断勾配1/50の抛物線形
橋 面	厚5cmの膠石コンクリート鋪装
高 檻	鐵筋コンクリートを主體とし



工期
起工 昭和11年5月
竣工 昭和12年3月
工事施行の行法
請負(株式會社飛島組)

(1) 城嶺橋附近平面圖

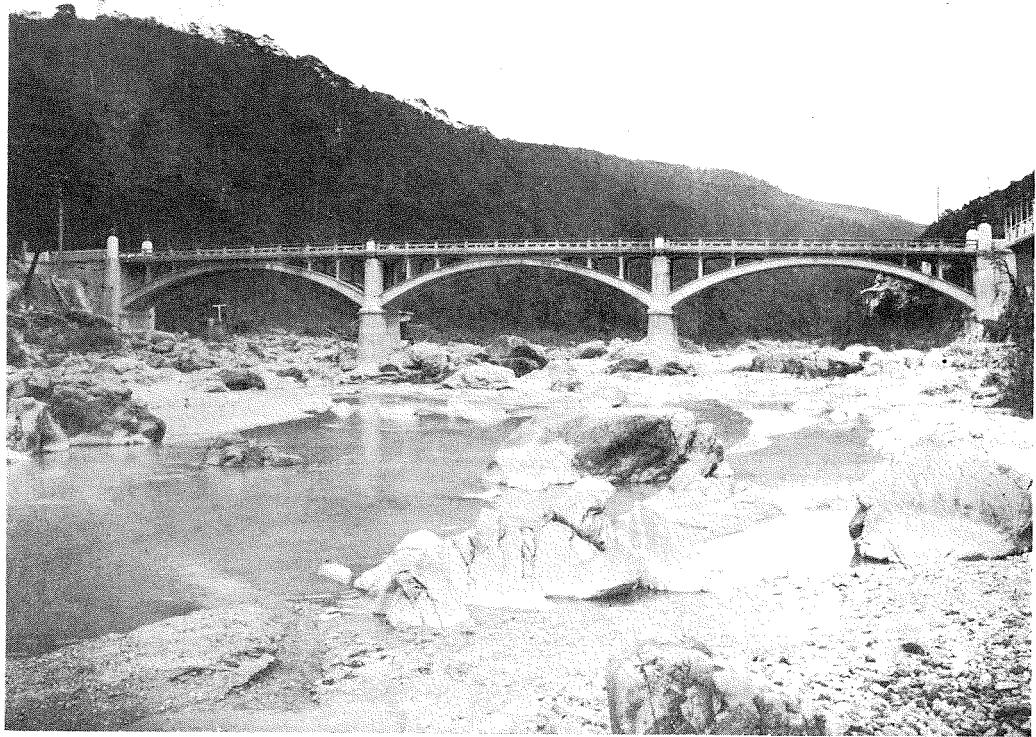


(4) 主要材料

拱基コンクリート	146.22m ³	(二基分)
拱脚コンクリート	202.96m ³	(二基分)
拱肋コンクリート	97.65m ³	(三連分)
橋體コンクリート	162.53m ³	(三連分)
取付道路用側壁コンクリート		
	153.0m ³	(兩側分)
床版橋用コンクリート	8.8m ³	
		計 771.16m ³ (1:2:4)
橋基及橋脚用鐵筋	6.16Ton	
拱肋用 鐵筋	24.1Ton	
橋體用 鐵筋	19.8Ton	
擁壁用 鐵筋	7.5	
		計 57.56Ton

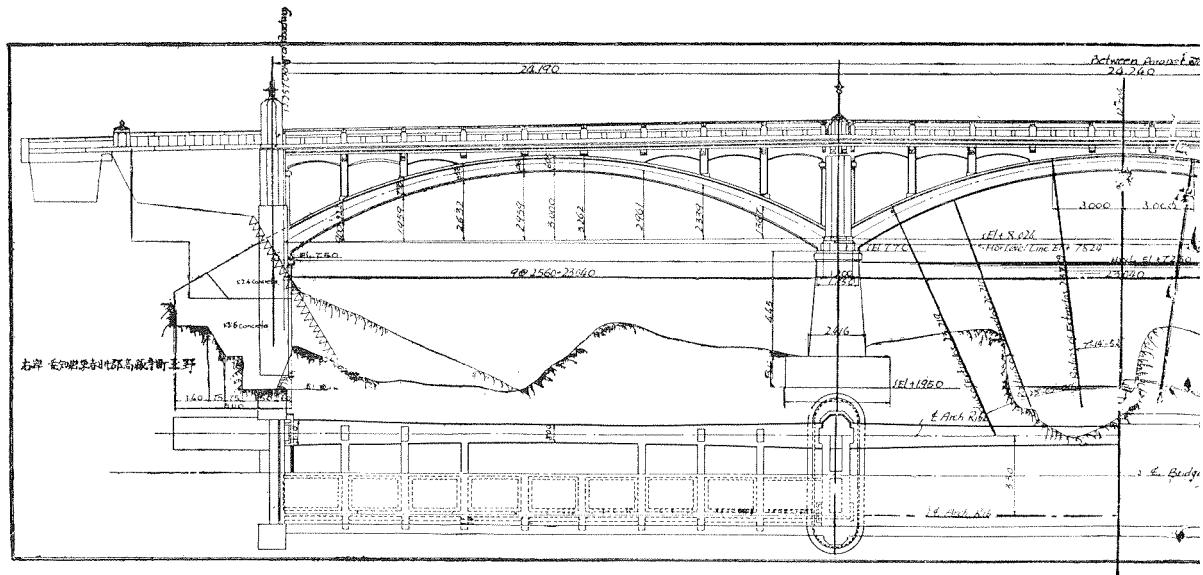
(3) 拱助設計の大要

拱助の形狀は死荷重のみを加へたるとき
の壓力線が其拱軸線と略一致する様數回の
トライヤルを行ひたる結果拱背面を三心圓
弧とし拱内面を一個の圓弧となす。
肋拱は 2 個よりなり拱頂に於ける肋厚を 60



(2) 上流側より見たる城嶺橋全景。

(4) 城嶺橋





(3) 城嶺橋側面・右方は中央線定光寺驛。

一 般 圖

